

## 下総、四街道・物井で自然体験

2022年4月9日(土) 参加：当フォーラム10名の他、現地住人、ボランティア等たくさん参加いただきました。指揮&ガイド：湯上さん、久保田さん(博物館/生態園)

湯上さん、ガイドさん、養蜂家さんなどのお迎えを受け、我々は物井駅を出発した。小さな流れに沿って小道をたどり、道端の花々、野草に注目しつつお散歩。鶯さんは美声を競い、カエルもぴよこぴよこ。外来種の西洋タンポポ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ等の勢いが増している。在来種のオドリコソウはこれから咲くようだ。昨年と同時期(4/10)に圧巻(満開)のウワミズザクラ(上溝桜)は残念(全く咲いていない)。冬の寒さのせいか1週間遅れでの4/16~17日に満開との便りあり。ウワミズザクラは花卉が房状(クラスター)に密集して見事。その実は黄、オレンジ、赤、黒と混じって、美しいとか。トウダイグサ(燈台草)、竹の斜面でウラシマソウ(釣り糸を投げる浦島さん)も発見。さらに線路脇のベリー畑で、タコノアシ(絶滅危惧種)を見た。乾湿が混じる湿地に生え、花は黄緑、丸まって咲くところが蛸のイボで、八方に広がる茎が足で、紅葉すれば茹蛸か？

やや回り道をして、土塁や堀跡等を縫って上り坂、**物井古屋城跡**を後にして、メイン会場の地主(山林、畑)さん宅へ。斜面の山林に竹も交じり生えている。長く寒かった冬のせいか、筍の発生が遅いとの予測もあったが、気温が急上昇したので、わずかに頭を出した筍を目ざとく、あちこちで見つけたと声上がり、掘り出し作業に大わらわ。下膨れの筍を掘り出すのは大変。鍬を打ち込む力やコツも必要で、重労働。皆さん頑張ったが、湯上さんに相当助けていただいた。お疲れ様でした。

手作りかまど、大鍋で早速茹で上げ、お手製のたれや山菜などと旬の味を皆で満喫した。

最後は養蜂家より巣箱の構造、内面、ミツバチさんのお部屋(ハニカム)、ミツバチの一生を学習し、蜂蜜を舐め、いっぱい学習した。巣箱は筍を茹で、味わっていた近くに常時設置され、時々チェックしに訪れるとのこと。生業(養蜂業者)には至っていないようだが、経験・知識を積み上げておられ頼もしい。次回、商品化し出来立てを購入したいと声が上がっていた。ミツバチの一生はわずか1か月。大集団に1匹の女王バチは数か月生きるか。女王バチはことさら偉いのではなさそう。卵を産み続け集団の維持が仕事、メスのミツバチ(働きバチ)はハニカムの部屋作り、掃除や補修、子育て、出入り口のガード、最後はお仕事で巣の外へ出て花の蜜と花粉を集め、巣に持ち帰る。これらを一匹がすべてこなす。わずか1月で。オスは全く働かず、メスに養われ状態。女王バチと交配するのが仕事。ミツバチ大集団が一糸乱れず、各々の役割通り、休まず働き続けると聞いて驚いた。人間は甘い蜜を吸っているのはどうか？

岩淵徹郎 記